



(社)日本技術士会 中部支部内 愛知県技術士会事務局

〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目4番14号 花車ビル北館6階

TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://www.mmjp.or.jp/chubu-IPEJ/aichi.html> MAIL g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

「巻頭言」

早朝の涼しさに時として掛け布団をかけ直す頃となりました。愛・地球博も無事、お開きとなり、ポスト万博の話題もささやかれています。愛知県技術士会も、会員各位のご協力のもと、持続的な発展をどけていきたいものです。

さて、今年度は、この会報送付について、実験的な展開を続けていますが、さらに新たな展開を事務局で検討しております。詳細について、事務局より次段に説明がありますので、ご一読の上、ご意見等を賜れば幸いです。

会報のE・P掲載実験

事務局より会報の掲載実験について、お知らせいたします。過年度すでに印刷物配布からメール配信に変更しておりますが、今年度はE・P配信を取り入れることにより、図表・写真等の掲載を容易にし、紙面デザインの一新を図りました。

この変更については、おおむね好意的な評価を頂いておりますが、一部の会員からは、依然、データの重さが問題であるとの指摘を受けております。しかしながら印刷物的な完成度をもった紙面構成を前提として会報を製作するためには、ある程度のデータ容量の増加はやむをえないところであり、会報そのものをメールで会員各位に送付する方式をとる以上、場合によっては個別会員の通信環境の快適性を確保できない恐れがあります。

一方、現在、愛知県技術士会では愛知県技術士会E・P(ホームページ)を運営しており、会報の「お知らせ」については、リアルタイムで会員の皆様に情報提供を行なっています。つまり会報とE・Pでは、その役割が一部重複しており、即時性を要求され

る内容については、E・Pの方が望ましい情報提供が可能になっていきます。

事務局では、この問題を解決すべく検討を進めてきましたが、会員各位によりメリツトのある合理的な配信方法の実験の実施について、この度、幹事会の承認を頂きました。具体的には以下の方法をとります。

- E・Pで既に重複的に取り扱っている項目については、会報から切り離す
- 会報は「会報レイアウト」を維持したまま愛知県技術士会E・Pに掲載する
- 会員各位にはメールにより会報発行のお知らせを行なう
- 会員各位の関与を高めうる魅力ある紙面作成のための新企画を検討する
- 十二月号(2006)より愛知県技術士会E・Pへの掲載を行なう

現在も愛知県技術士会E・Pには「最近の会報」のコーナーがあって、バックナンバーを閲覧することが出来ます。よろしければ一度、アクセスしてみてください。何のストレスもなく会報を閲覧できると思います。2月号より、この最新ページが最新会報となります。メールによるお知らせでは、このページにリンクしたアドレスを添付し、新刊お知らせメールに添付されたアドレスをクリックするだけで最新会報にアクセスすることができるようになっています。

この実験を来春まで継続し、皆様のご意見を参考にさせていただき、最終的には幹事会に図って新しい運用体制への移行を決定いたします。この方法の推進により、愛知県技術士会E・Pへのアクセスが増加し、E・Pを会員交流の核として集中運営することも可能になります。愛知県技術士会の新しい取り組みのひとつとしてご理解いただき、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

(事務局)

「湖海の士」

趣味から道楽へ

澤栗 裕二(電気電子)

越後良寛と山本五十六元帥の話で育てられた私は、天皇の命名日に生まれ裕仁天皇に因んだ名前だ。昭和二十一年、最後の旧制中学に入学できたことにより、高校卒業まで受験勉強もろくにしないで独走した我が工作少年の?未記である。木工・幻灯機などの製作に没頭した頃、ヒューズはなぜ飛ぶ?から次第に電気の道へ。独学で田舎のラジオ屋へ通いながら無線通信の探求をする。

昭和二十七年、憧れの東京電機大学電気通信工学科へ入学した。秋葉原(電子部品調達)と神田の誠文堂新光社が近く、電子雑誌で知己の中野道夫先生(後に学長)を大学教授名簿で拝見、入学と同時に先生の卒研を決めた。

田舎者が早速、無線の知識を得ようとクラブ活動の創設を申し込んだところ、学友会長に断られた。曰く、本学は電気・電気通信を学ぶのだから、クラブ活動は尺八クラブとかの情動的なもののみと断られ疑問を抱く。そのきっかけで親友(後に技術士)を得、仲間を集めてゼミ・激論・旅行等をしたことが、今は懐かしく、それはかの安保闘争たけなわの学生時代であった。

在学四年間は寮生活。二〇人に一人の難関を突破し、東京学生会館(現、日本武道館の位置)に入居、神田にある大学まで徒歩三〇〜四〇分の通学だった。なんと寮費は月額たったの一二五〜一二七円也。東京都内の公私大学余人中に、母校枠は六〜九人あったが、この枠は先輩たちが勝ち取ったもの。



学生会館では、九段下・神保町へ飲みに行ったり、同僚と一緒にKMCVへ通ったりで社交術？を身につけた。学園寮とは別格のオアシスである学生会館において、バンカラ電大生が胸元を開き、みんな酒を覚え、飲んだ学生時代が今も忘れられない。また、田舎者の私が発音音痴・口下手を克服し勇気が出たのも、思えば、先輩・後輩間の明るい関係と自愛心・人の輪の大切さが自然の営みとして身に付いたからである。アルバイトは特技とするラジオ・電蓄の組立と納品。山際電気での卸の買い方を覚えて結構儲かった。

卒研は「マイクロ波歯形アンテナ」の研究開発であった。そして追加の論文書きは就職後にも続いた。民放第一声局中部日本放送（CBC）へ就職、技術人として勤務する。あの伊勢湾台風襲来の夜は、鳴海放送所（当時は有人のラジオ送信所）での泊まり勤務だった。出向先の㈱中日電子では遅延線・各種電子機器・無線機器の製品化開発を担当。四十二歳の時、技術士試験に一発で合格できた。この試験は兎に角やりがいがあつた。ただちに、日本技術士会へ入会し、多くの技術者との交流を深め、自分の技術力を高めるように励んだ。そして、口頭試験のとき約束した企業内技術士として企業に尽くしたつもり。

この頃、fifty-fiftyと言っていたが、公私を混同しながら、その後は結構気にしつつバランスをとら

ていたと思う。白井一男先生（元中部支部長）をはじめ歴代支部長・先輩・幹事先生のご指導を受けるとともに、仲間に入れてもらって名簿整理・「マイコンおしゃべり会」・全国大会・合同会議運営など諸々のお手伝いをさせてもらう。例会の都度、自分の名前が出ない時は無かった。それは自分の活動の励みになった。その後、県単位の技術士会を誕生させる機運が生まれ、愛知県技術士会の事務局長を拝命した。会報の奇数月定期発行、年六回の例会（講演会・研究発表会・見学会を各一回）を実施することを提案。これは現在までも引継がれ、良かったのかなと。同時進行で名古屋新潟県人会の事務局長を拝命したが、若さの至り、三足の草鞋をよく履けたものと自身自身を褒める。

六十五歳で自営「S&C澤栗技術士事務所」を開く。別棟の事務所であることを知った懇意の社長は我が社の技術顧問でその経費を賄ったとの有難いお話し。電子技術、高周波技術の指導・教育・講演を主業務として、研究試験用計測器を五〇〇万円も購入した道楽がここに本格化したのだ。

幸い、私には経験豊富な雷害解決課題があつた。ある日、愛知県工業技術センターから講演に招かれたのが契機となり、故郷の新潟を手始めに、雷対策講演と現場対応の仕事を開始した。以降、全国8箇所、対策後もすべて無事故となり累計8年（2005年現在）になった。雷は高いところに落



ちるのは誤りで、避雷針より低くても「漂誘導体が大気分子や雨粒の付着で帯電することによって誘雷する」とした澤栗の仮設のもと独自の誘雷避雷対策を指導しての結果である。

良き先輩・同僚・後輩と仕事に恵まれ、付き合いの良い妻にも感謝・感激の毎日です！

余談を少し。自宅に27kWの太陽光発電を設備、営業にプリウス（Prius）を愛用。気持ちだけでも、地球温暖化防止に協力しているつもり。次なる課題は水の電気分解で水素の生成？と備蓄？を推進しよう。

五人兄弟姉妹の真ん中で、頭の鈍い私だけは先生稼業を拒否し、好きな道を歩んできた。しかし、今は背に腹はかえられず、私には時間が幾らあっても足りない状態です。何事も真剣に考え努力をすれば、道楽は本当に楽しいものである。以上

（次は、若さみなぎる木村正彦先生にバトンタッチします）

「お知らせ」

●愛知県技術士会平成一七年度

第三回業績発表会

日時：十月十五日（土）

午後一時三〇分～午後五時迄

場所：国際センター三階

第一研修室

内容：会員三名による業績発表

一 太陽光発電システムの導入

と今後の課題 吉村元一氏

二 底質の好気化処理について 井上祥一郎氏

三 チェニス「MSA」における

ボランティア活動の概要

本革英祐氏

※有料（技術交流会あり）

●シニア会

日時：十月二十日

午後一時三十分～午後四時

三十分迄

場所：東別院会館二階 萩の間

講演：特許情報活用支援アドバイザー制度について（仮題）

講師：（財）日本特許機構特許情報支援アドバイザー 井上勝氏

※話題提供として林清隆氏の「最近のベトナム事情」もあります。

※シニア会の開催は十月二十七日から十月二十日に変更します。

●SO14401ワーキンググループ

日時：十一月八日（火）

午後一時三十分～午後五時三十分迄

場所：東別院会館二階 萩の間

内容：企業にとっての環境報告書

十分迄

場所：東別院会館二階 萩の間

内容：企業にとっての環境報告書



環境報告書にみる企業の環境活動動向

※有料（懇親会あり）・定員あり

●愛知県技術士会

第四回例会「見学会」

日時：十一月十六日（水）

午前八時三十分～午後五時三十分迄

場所：トヨタ自動車(株)田原工場と田原市エコパーク

集合：名古屋駅西口噴水前

※有料・定員あり

右記のみっつのお知らせについては、愛知県技術士会エ・ロで詳細をご確認下さい。

http://www.mnj.or.jp/chubu-1PEJ/ai_chi.html

●平成一七年度第二回例会

「講演会・技術交流会」の報告

平成一七年度愛知県技術士会第二回例会「講演会・技術交流会」は、八月二十日（土）に、三三名（内訳 会員：技術士一名、非会員二名）の参加を得て、和やかに開催されました。

講演会に先立ち愛知県技術士会柴田素伸代表幹事から「金属材料はこれまで『緻密さ』が求められてきましたが、近年、欠陥と見なされた疎に着眼した新材料の分野が脚光を浴びています。今日は欠陥を逆手に取った環境にやさしい新技術、新素材についてのお話が聞けると思っています。」との挨拶と講師紹介がありました。

つづいて、名古屋大学大学院

工学研究科マテリアル理工学専攻材料工学分野金武直幸教授に、「環境調和型新材料の創製」と題して講演をいただきました。

動画が盛り込まれたプロジェクトによる講演と、学生さんが作った材料（資料）を手に取りながら、金属材料の高機能化という難しい話のはずなのに話に引き込まれ、瞬く間に講演の時間が経過しました。

また、多数の質問が会場から寄せられ、時間内では回答しきれず、残りの質問は、同じ会場に用意された技術交流会の場へ引き継がれました。



技術交流会で参加者の質問を受ける金武先生

以下に、金武教授による講演要旨項目を下記に報告します。

- 一 化学反応を利用した多孔質（ポラス）材料の創製
- 二 化学反応を利用した金属系複合材料の創製
- 三 塑性加工を利用した金属系複合材料の創製

四 塑性加工を利用した組織制御及び固相リサイクル
五 まとめ

最後に、本例会は、夏期休暇の最中、家族サービスの時間を割いてまでも講演していただいた金武教授と参加していただいた皆様のご支援で実施されたことを報告し感謝いたします。

※以上、世話役の一人、中西利美氏からの報告文より抜粋させていただきました。なお、詳細については議事録、レジメ等がありますので、事務局にお問い合わせ下さい。

『編集後記』

次回からは、会報は愛知県技術士会ホームページに掲載されます。会員の皆様には、会報最新号掲載のお知らせと、会報閲覧のための愛知県技術士会のホームページアドレスをメールでお知らせすることになります。これまで会報を郵送で受け取っておられた会員の方にはこれまでどおり、郵送でお送りしますが、新たな郵送希望はお受けしません。なお、郵送の場合は、会報はモノクロになりますのでご了承ください。

インターネットが情報交流の主流となりつつある現代において、会報を電子化する方向は技術にかかわるものとして必然であると現事務局は考えています。同時に、出版物のもつ存在感が醸し出す心理的距離の近さもまた、「本読み」の一人として大切に考えてもいます。そこで、ホームページに掲載する

場合でも、会報を解体してホームページに吸収するのではなく、あくまで「会報」としてのまとまりを維持し、出力すれば、印刷物として手にとってお読みいただき、保存もできるように配慮いたしました。

この号より、左端に矢印を設け、バインダー用のパンチの位置を決めやすくする工夫を試みたのもその一環です。

事務局としては、当面は、印刷物と電子媒体の双方の視点から「会報」を編集、発行するともに、そのあり方を検討していきたいと考えています。

なお、今回、「湖海の士」を執筆していただいた澤栗先生には、愛知県技術士会会報の初号からのバックナンバーをはじめ、貴重な資料を頂戴するとともに、重要なご意見を頂いております。他にも様々なご意見やご鞭撻を頂いております。お礼を申し上げるとともに、事務局としては、その責任の重さを痛感する次第です。

今後、発刊体制だけでなく、内容についても刷新を図っていく決意しておりますので、これまで以上にご意見、ご提案、参画をたまわりますようお願い申し上げます。

（事務局 跡部 西脇）

